

事故や病気後に記憶・集中力低下

高次脳機能障害

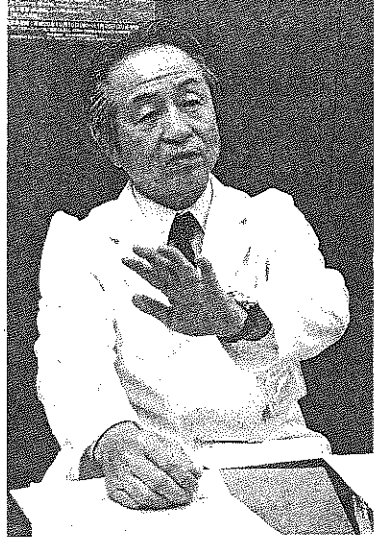
交通事故やスポーツで頭を強打したり、脳卒中になったりした後で、記憶力や集中力低下などの症状が現れたら「高次脳機能障害」を疑う必要がある。事故や疾病によって子どもから高齢者まで誰もが発症する可能性がある。後天的な障害だが、外見からは分かりづらい。そのため、社会の理解は十分に進んでいない。3月7日に市民公開講座が徳島市のあわぎんホールで開かれるのを前に、徳島大学の永廣浩治教授(脳神経外科)に原因や症状などについて聞いた。

理解少なく「怠け」と誤解も

高次脳機能障害は、交通事故やスポーツ、転倒による頭部外傷のほか、脳卒中などの脳血管障害、一時的な心筋停止による低酸素脳症など、脳の一部が損傷することによって引き起こされる。主な症状は▽物事をすぐに忘れる「記憶障害」▽一つのことに集中できない「注意障害」▽自分で計画を立てられない「遂行機能障害」▽感情を制御できない「社会的行動障害」▽片側にある物に気付かない「半側空間無視」▽「半側空間無視」などが挙げられる。これらは重複する場合もあり、重症度を含め、症状は人によってさまざまである。永廣教授は「症状が同じ人はほとんどおらず、障害が重度だと自分

自身で自覚できないケースもある」と指摘。「専門医による診断を受けていない人もおり、患者は県内に数百人はいえる可能性がある」と推測する。県内での発症事例では20代の女性が交通事故後に職場復帰したものの仕事のミスが続く、会社を解雇されたり、脳卒中から回復した男子児童が学校の授業に付いていけないようになったりしたケースがある。外見上は障害が分かりにくいいため、発症した人が「怠けている」「性格が変わった」と周囲から誤解されることも少なくないという。

症状の一部は認知症と似ている部分があるが、加齢などによって進行する認知症と違い、高次脳機能障害は進行せず、リハビリによって回復の見込みもある。永廣教授は「少しでも思い当たることがあれば、早めに専門医に診てもらってほしい」と呼び掛けている。県は2007年から徳島大学病院を高次脳機能障害について相談や支援に取り組み「中核支援拠点施設」に位置づけている。高次脳機能障害に関する相談は同大学病院地域医療連携センター(電話088(633)9107)。(萬木竜一郎)



高次脳機能障害の症状について説明する永廣教授—徳島大

高次脳機能障害の主な症状

<p>記憶障害</p> <ul style="list-style-type: none"> 物の置き場所を忘れる 何度も同じことを話したり、質問したりする 約束が覚えられない
<p>注意障害</p> <ul style="list-style-type: none"> 気が散りやすい 同時に複数のことができない 話の内容がころころ変わる
<p>遂行機能障害</p> <ul style="list-style-type: none"> 仕事の優先順位がつけられない 行動の計画が立てられない 一つ一つ指示されないといけない
<p>社会的行動障害</p> <ul style="list-style-type: none"> 気分が沈みがち 突然怒り出すなど感情をコントロールできない 一つのことをするとやめられなく 相手の気持ちを思いやることができない
<p>半側空間無視</p> <ul style="list-style-type: none"> 片側の物に気付かずぶつかる 片側にあるものを見落としやすい

第38回日本脳神経外傷学会・市民公開講座「わかりやすい高次脳機能障害」(徳島大主催)が3月7日、徳島市のあわぎんホールで開かれる。徳島大学の白山靖彦教授が「わかりやすい高次脳機能障害」をテーマに講演。国立障害者リハビリテーションセンター(所沢市)中島八十一学院長が

「見える障害—高次脳機能障害—労働者健康福祉機構・門司メデイカルセンター(北九州市)鎌須賀研二院長が「家族が困る症状と対処法」も語る。午後3時～6時。参加無料。定員300人。問い合わせは徳島大脳神経外科・市民公開講座係(電話088(633)7149)。